

特定非営利活動法人 JIPPO

2015(平成 27)年度 事業報告

2015年4月1日から2016年3月31日まで

2015年度を振り返って

2015年度は前年度からの継続事業であるフィリピン台風30号復興支援「サンブラワン小学校再建プロジェクト」をまず終了させることを最優先に年度を開始しましたが、結果としてこの事業に終始する一年となりました。理由として、施工業者の選定に予想以上の時間がかかったことが挙げられます。

被災地では復興バブルともいえる人材の高騰、資材の不足によって JIPPO の提示する建築費で請負う業者を探すのに時間がかかっただけでなく、業者の信頼性を重視し慎重に検討を重ねたため、選定の遅れに拍車が掛かりました。

こうしたことから建設に最も適した乾期を逃し、雨期に差し掛った7月に着工せざるを得なくなりました。サンイシドロ町の道路整備も度重なる豪雨に難航する中、人力で資材を運び入れながら工事が行われ、年明け2月に完成の連絡が届きました。JIPPO アドバイザーによる構造の確認を経て、4月の竣工、譲渡の日程を決めたところで今年度を終えました。

また、学校の敷地に給水設備が無く衛生的な生活を送ることが出来ない問題を重視し、ろ過装置付き井戸の追加支援に着手しました。無事校舎が完成し、大筋でプロジェクト完了の目処が付いたことは大きな成果でした。

国内の事業では、龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの共同で行ってきた京都市内での野宿者支援に、一旦区切りをつけました。活動開始当初は30名以上の野宿の方がいましたが、2名まで減ったことから同センターと協議し、年度末をもって毎月の巡回を終了しました。同センターとは新たな共同事業の模索をしています。

設立7周年を迎え、事務局人事にも変化がありました。設立以来1名だった常勤職員を10月より1名増員し、事業規模の拡大が期待されます。また、会計業務を外部委託し、業務の効率化を図りました。

各事業の実施内容

(1)海外支援事業

①フィリピン台風30号による被災地の災害復興支援

事業名	2013年フィリピン台風30号 災害復興支援事業 サンブラワン小学校再建プロジェクト
実施地	フィリピン共和国 レイテ州 サンイシドロ町 バランガイ バスッド
期間	2014年4月1日(月)から継続事業
内容	2013年11月のフィリピン台風30号によって大破した、フィリピンレイテ州 サンイシドロ町バランガイバスッドの「サンブラワン小学校」を再建する事業。浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金、仏教婦人会総連盟ほかからの指定寄付により実施した。2015年度は業者選定から始め、6月30日に起工、2016年2月に概ね完成した。なお、学校敷地に給水施設がないため、追加支援としてろ過装置付きハンドポンプ井戸を設置。また児童生徒120人分のテーブル付きチェアを入れた。
受益者	バランガイ バスッドの100世帯の子どもとその親、約200人

成 果	カウンターパートを前年度のタバング町からサンイシドロに変更し、行政の管轄問題などを整理した。業者はフィリピンの社会事情に詳しい大学の研究者らの助言を得て、信頼の置ける業者を選ぶことができた。予算との兼ね合いや業者の見極めに時間を要し、工事が雨期と重なって、資材の運搬、建設工事は難航したが、2月に校舎が概ね完成。日本人専門家による確認踏査を経て工事が完了した。予算は決して潤沢ではなかったが、現地で一般的な耐久性を確保した1棟3教室の校舎を無事完成させ、子どもたちをはじめ地域の学びの拠点となった。また井戸の設置を追加支援したことにより、子どもたちの水汲みが容易になり、衛生環境が向上した。
事業費	8,290,047円（2015年度直接経費）

(2) スタディツアーの企画・実施

事業名	スリランカ「茶園と人々の暮らし」
実施地	スリランカ・コロンボ、ハプタレー、ゴール
期 間	2015年8月29日（土）から9月5日（土）
内 容 成 果	JIPPO が扱うフェアトレード商品（ウバ紅茶）生産地のグリーンフィールド農園や市立幼稚園を訪問したほか、コロンボ郊外のモラトワ市の伝統家具工房や福祉施設を見学した。
参加者	4名（JIPPO 引率1名を含む）

(3) フェアトレードの実施

スリランカ産「ウバ紅茶」および東ティモール産「カフェ・ティモール」をフェアトレードラベルの国際基準に則り販売。ウバ紅茶は生産者と直接取引を行い、カフェ・ティモールは、現地で生産者組合を組織するNPO法人パルシックと連携し販売した。

① 販促活動実績

- ・京都商工会議所主催商談会に参加。
- ・会員へお歳暮セットのDM 発送し、売上を伸ばした。

② 販売実績 【2016年3月31日現在】

商品名	出庫個数				
	4月 ～6月	7月 ～9月	10月 ～12月	1月 ～3月	合計
ウバ紅茶リーフ	52	48	55	70	225
ウバ紅茶ティーバッグ	179	102	147	152	580
カフェ・ティモール（ドリップ 8P）	163	152	328	163	806
カフェ・ティモール（粉）	70	58	64	65	257
カフェ・ティモール（豆）	35	32	19	25	111
カフェ・ティモール ドリップ（バラ）	556	472	612	667	2307
カフェ・ティモール ミニパック（3P）	0	10	3	72	85
カフェ・ティモール ミニパック（4P）	700	45	500	0	1245
カフェ・ティモール ミニパック（5P）	0	0	61	0	61
業務用パック（豆、粉500g）	39	19	68	60	286

今年度売上額：¥2,352,205.-

（前年度売上：¥2,047,825.- 前年度比：115%）

(4) 東日本大震災復興支援

① 菜の花プロジェクト

事業名	「菜の花プロジェクト」お花見イベント
実施地	南相馬市小高区
実施日	2015年5月18日(月)
内容 成果	南相馬市小高地区の菜の花畑の開花に合わせてお花見会を実施。京都、山形、仙台など南相馬市内外から約30人が参加した。 県外者に原発事故被災地の現状や復興プロジェクトを広く知ってもらい、被災地で頑張っている方々と交流を図る事が目的である。真宗教団連合から助成を受け実施した。当日は生産者や県外から26名が参加し、なたね油を使って野外で天ぷらを揚げ、それをみんなで食べながら被災地の現状をお聞きした。生産者も大きな励みになると喜んでいた。復興には人と人とのつながりが重要であり、このプロジェクトによってさらに関係づくりを仕掛けていく必要がある。
事業費	239,046円

② 福島県産物産販売

継続事業として、福島県の風評被害を払拭する活動として、福島県観光物産交流協会に協力し物産を販売した。また、菜の花プロジェクトにおいて菜種油「浦里の雫」シリーズが発売され、JIPPOも販売協力を開始した。

今年度売上額：¥1,560,580.-

(前年度売上：¥906,731.- 前年度比：168%)

(5) 国内における貧困者への支援

① 京都市内3河川の巡回を継続

(龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの共同事業)

3月末日現在、対象地域の野宿者が2名となったため、巡回活動を終了した。

② 1月9日(土)、第21回もちつき大会(東本願寺前)の実施協力。京都市エコイベントに申請し、リユース食器助成金を受けた。

(6) 啓発活動

- ・5月27日(水)、龍谷大学短期大学部 国際福祉実習事前講義。
- ・7月30日(木)、31日(金)、本願寺盆踊りにてフェアトレードおよび福島物産を販売した。
- ・8月4日(火)、24日(月)、9月11日(金)、12日(土)、13日(日)の5日間、龍谷大学短期大学部国際福祉実習3名を受け入れた。
- ・9月13日(日)、国際協カステーション出展。龍谷大学短期大学部国際福祉実習と合わせ、フェアトレードカフェを設営。
- ・11月7日(土)、JIPPO設立7周年記念 活動報告会。
菜の花プロジェクト実施地の佐藤良一氏による基調講演および記念ライブコンサートを開催。
- ・2016年1月9日(土)～11日(月)、御正忌報恩講バザーを開催。

(7) 情報・広報活動

- ・2014年4月1日より2年間にわたり『本願寺新報』にてJIPPOの活動紹介を連載。
- ・会報12号発行(5月1日号)、13号発行(9月1日号)、14号発行(2月1日号)。

(8)組織、運営

- ・6月24日、第1回理事会開催。
- ・6月24日、第7回総会開催。
- ・2016年3月25日、第2回理事会開催。

【会員数】（2016年3月31日現在）

正会員 137（個人127、団体10）
学生会員 16（個人16）
賛助会員 193（個人175、団体18）
合計 346（個人318、団体28）

以 上